

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画

教職課程の教育目標

建学の精神をふまえた芸術教育を柱に、創造性及びコミュニケーション力を備えた「教育者」を育成し、初等中等教育分野で生徒の発達を支援し、社会に貢献できる人材を育成することを目標とする。

教職課程の教育目標を達成するための計画

1年次

中高教職課程では教職の基礎となる「教職概論」を修得し、教科教育においては各分野の理論や歴史、基礎的技術を修得する。初等教職課程では「教職概論」や各教科科目を修得し、「体験演習」で保育所、幼稚園、小学校などの現場を体験する。

2年次

中高教職課程では教育の基礎的理解に関する科目を修得し、教科（美術・音楽・国語）の指導法で学習指導要領に基づき、教科の指導内容について理解する。適切な指導と評価計画が作成できる資質の向上を図る。教科教育では実践的な授業を中心に技能の向上を目指す。初等教職課程では各教科の指導法を中心に学び、実践力の向上に努める。「こどもふれあい体験実習」で幼稚園、小学校、特別支援学級に分かれ、週に1度教育現場を体験することで技能や資質の向上を図る。

3年次

中高教職課程では教科（工芸・情報）の指導法で学習指導要領に基づき、教科の指導内容について理解する。中高・初等の教職課程において、ICT活用のスキルや応用力を身につけ、授業設計ができる資質の向上を図る。教育実習の履修条件科目を全て修得し、4年次の教育実習に備えて教員に必要な能力や資質を養う。介護等体験では個々の特性に寄り添った関わりを経験し、多様性に対応できる能力を身につける。教科教育では、より高い専門知識、技術・技法を修得し、指導力を深める。

4年次

中高・初等の教職課程において、教育実習の事前指導では教員に求められる基礎的知識や技術を振り返るとともに、社会人としての自覚や礼節を持って他人と向き合うことの大切さを再確認する。学習指導要領の内容を確認し、指導案を作成する。模擬授業では、教職科目や専門科目で修得した知識や技術を活用し、教育現場で指導力を発揮できるよう努める。事後指導では教育実習を振り返り、成果や課題について協議する。

美術学科

【教員養成の目標】

油画・日本画・版画・彫刻の各分野における基礎的な知識と技術・表現の専門的な能力や、創造性と独自の表現方法を修得し、実践的指導力を身につけることのできる教員養成を目標とする。

【当該目標を達成するための計画】

教職に関する科目に加え、教科に関する専門的事項として実技技能や美術理論、美術史などの科目を修得するとともに、美術科の指導力を身につける。また工芸論や工芸史、図法や製図などの実技技能を修得し、工芸科の指導力を身につける。

デザイン学科

【教員養成の目標】

学科の教育目標であるデザインの概念や対象の多様化に対応できる基礎的かつ専門的な知識・技術及び実践能力を有し、創造力や表現力、論理力や課題解決力などを備えた人材を育成することができる教員養成を目標とする。

【当該目標を達成するための計画】

- ・教職に関する科目に加え、美術史及びデザイン史の科目により、鑑賞教育などに役立つ体系的知識を修得する。
- ・平面及び立体領域のデザイン基礎1及び2の科目を教科に関する専門的事項の科目として配置し、基礎的且つ専門的な知識・技術を修得する。
- ・7つのデザイン分野を扱うデザインスタートアップ1及び2の科目を同様に配置し、多岐多様なデザイン分野の専門的な知識・技術を修得する。
- ・学科内各コースに配している各デザインスキルの科目により、ICTを始めとするデジタルによる専門的な表現力を修得する。
- ・学科内各コースに配している各デザイン研究の科目により、デザイン分野の特質である社会での役割や社会の欲求に応えられる思考力や表現力を修得する。

工芸学科

【教員養成の目標】

金属工芸、陶芸、ガラス工芸、テキスタイル・染織分野における基礎的な知識と、様々な素材や技法を用いた実際の“ものづくり”の体験をいかした実践的指導力、また、現代のコンピュータ社会に対応したデザイン力、プレゼンテーション能力を身につけることのできる教員養成を目標とする。

【当該目標を達成するための計画】

教職に関する科目に加え、教科に関する専門的事項として次の知識や技術を修得する。

- ・美術理論や美術史、実技技能を修得するとともに、美術科の指導力を身につける。
- ・工芸論や工芸史、図法や製図などの実技技能を修得し、工芸科の指導力を身につける。
- ・プレゼンテーション演習やアートマネジメント演習などにより IT 機器を取り入れた実践的な指導力を身につける。

文芸学科

【教員養成の目標】

創作・ノンフィクション・編集・出版・文芸研究における各分野のスペシャリストとして必要な専門知識と実践力を修得し、国語科の学習指導における実践的指導力を身につけることのできる教員養成を目標とする。

【当該目標を達成するための計画】

教職に関する科目に加え、教科に関する専門的事項として国語学、日本文学、日本文学史を修得するとともに、演習を通して文章力と批判的思考力を育成し、実践的な国語科の指導力を身につける。

音楽学科

【教員養成の目標】

音楽の基礎的能力をそなえた上で、創造性と時代のニーズに即応する能力を持ち、音楽のみならず音そのものにも関心を向け、また、諸芸術の一つとしての音楽という捉え方で音楽を教育する実践的指導力を身に付けることのできる教員養成を目標とする。

【当該目標を達成するための計画】

ピアノ、声楽の演奏実技の基本の上に立ち、教職に関する科目、また、教科に関する専門的事項として音楽理論や作編曲法、音楽史などを修得することを通して、音楽科の指導力を身につける。

演奏学科

【教員養成の目標】

さまざまな音楽を研究し、実技レッスンを通して各分野の知識、演奏技術、感性などの能力を身につける。生徒の成長を支えるという責任感や倫理観、困難に立ち向かう精神力、そして生徒一人ひとりの個性を尊重する温かい人間性を備えた教員養成を目標とする。

【当該目標を達成するための計画】

音楽理論や作編曲法、音楽史、演奏技能など専門的知識を修得し、表現力と創造性を養い、あらゆる音楽ジャンルに対応できる指導力を修得させる。教職に関する科目において、教育者としての資質の育成を図り、実際の教育現場で活かせる実践的指導力を培い、音楽を通して人間性を向上させる指導者を育成する。

初等芸術教育学科

【教員養成の目標】

学科の教育目標でもある芸術を通して感じ取る感性を身に付け、子どもの育ちを援助したり、心を癒すことのできる能力を身につけ、子どもの良き理解者となる実践的な指導力を持った教員を育成することを目標とする。

【当該目標を達成するための計画】

目標を達成するために次の計画を実施する。

1. 1年次より段階的に現場での実習を取り入れ、教職に対する理解を深めるとともに、幼児・児童・生徒との関りや指導法を実践的に学ぶ。
2. 美術や音楽、芸術療法や福祉、演劇的手法による学びから教育現場にある諸課題に対して主体的に対応できる力を身に付けさせ「対人援助職」の資質を磨く。